



信州 × 世界 の未来をデザインする

対話型ワークショップ(WS)



イノベーションのツボは対話にある！！



主旨

信州大学では、イノベーションを創出するために、多様な参加者による対話型ワークショップ(対話型WS)を実施します。長野県の豊かな自然を保ちつつ、安全・安心かつ便利な未来についてビジョンを明らかにし、20～30年後の『信州×世界の未来』をデザインします。現在の人々が有する潜在的なニーズ(あったらいいな)を掘り起し、それを実現するために必要な課題と解決策を明らかにすることで、将来への糸口を掴みます。

◆ 対話型ワークショップとは？ ◆

対話型ワークショップとは、参加者同士の対話を通じて、新たなアイデアの創出や課題解決を行うワークショップです。多様な参加者の知識や経験を対話に取り込み、新しい価値やこれまでの価値を変えるものを創造します。

◆ 信州大学のイノベーション ◆

イノベーションのツボは対話にある！これは、立場や属性が異なる人が新たな出会いや新たな組み合わせに気づかせ、イノベーションを創出してゆくことを表しています。信州大学では異分野融合、文理融合に加え、政治・行政、文化、日常生活と研究の対話による出会いの場をデザインすることで、新しい価値を生み出します。

◆ 産学官連携人材によるファシリテーション ◆

ファシリテーターは適切な対話手法を用いて参加者の発言を先導することで、参加者のコミュニケーションを促進し、参加者が自由に思考・発言しまとめるプロセスを助けます。本事業では、産学官連携人材によるファシリテーターの育成も同時に行います。

第1回目対話型ワークショップ

平成25年10月10日(木)、まつもと市民芸術館にて第1回対話型ワークショップ「信州×世界をデザインする」を開催しました。多様な参加者の皆様が、20年～30年後のビジョン(展望)を対話により明らかにし、大いに盛り上がりました。

ワークショップ参加者32名

メインファシリテーター

鷲見真一 氏(特定非営利活動法人SCOP)

ファシリテーター

林 靖人 氏(信州大学地域戦略センター)

堀野 功 氏(信州大学URA室) 長谷川豊 氏(〃)

鳥山香織 氏(〃) 土井達也 氏(〃)

日時:2013年10月10日 木曜日 10:00～17:00

場所:まつもと市民芸術館 オープンスタジオ

主催:信州大学産学官連携推進本部

協力:特定非営利活動法人SCOP、長野県デザイン振興協会

対象:地域の皆様、企業関係者、行政関係者、大学教職員

プログラム

『信州×世界の未来をデザインする』

10:00	オープニング
11:00	第1部:幸せな未来の実現のためのイノベーションの種を見つける ワーク1「幸せを感じる状態・瞬間」
12:30	昼食
14:00	第1部:続き ワーク2「あったらいいなこんな〇×(モノ・サービス・制度・社会)」
15:00	2部:未来の信州の生活や社会のビジョンを考える
16:00	クロージング まとめ
16:45	次回ワークショップの紹介
17:00	解散



第1回対話型WS会場:まつもと市民芸術館

第1回目対話型ワークショップ 成果発表！！！！

Aチームの20-30年後のビジョンは、

福祉が豊かで市民の声も行政に反映される理想の民主主義社会



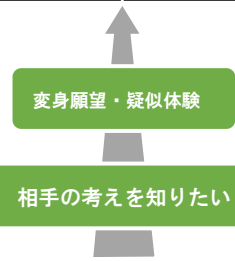
20～30年後は、少子高齢化やインフラの劣化が進み、ハード面およびソフト面とも充実させることは困難になります。財源も縮小するとみられ、特徴や魅力ある地域を維持・促進することが難しいと考えられます。

そこで、北欧のような「福祉行政」と「市民と行政の対話」を取り入れます。財源とその使い道は、市民と行政の対話により、市民誰もが納得できるように決定します。これにより、市民が様々な公共財を享受し、精神的にも物質的にも豊かな理想の民主主義社会を実現します。



Bチームの20-30年後のビジョンは、

リアル・バーチャルコミュニケーションに対応したストレスフリーな社会



20～30年後の社会は、より多様な人が既存のコミュニティの枠を超えて繋がり、意思疎通の新たな障壁が発生し、益々ストレス過多になると予想できます。そこで、バーチャルな場面で相手の考えをくみ取り、意思疎通の行き違いを軽減することおよび、多様な人とのコミュニケーションにより生じた多くの気苦労を、現実を飛び越えた世界を体験することにより、解消できる社会を提案します。



Cチームの20-30年後のビジョンは、

人と人の関係をストレスフリーにコントロールし豊かに生活する社会



自然をコントロールしたい

健康をコントロールしたい

心理をコントロールしたい

20～30年後、豊かな生活を求めて人口移動が活発になり、多様な人種・属性の人が混在し生活することで意志疎通が難しくなります。また人口増加に伴い自然災害の被害拡大や、資源の枯渇が予測されます。

そこで、『制御できないものをストレスフリーにコントロールする』をキーワードに、自己の記憶・心理・健康状態や人間関係をコントロールしたり、自然現象をコントロールし生活に活用したりすることで、豊かに生活する社会を実現します。

Dチームの20-30年後のビジョンは、

ツーカーの仲であらゆるリスクを低減する社会



世界の人とのコミュニケーション

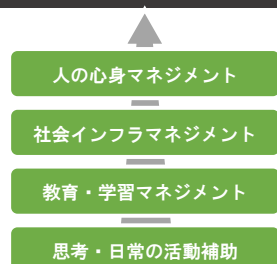
ベストな状態の身体

現代は、コミュニケーションの行き違いにより、健康に大きなリスクが発生しています。患者と医師の間で発生すれば、適切な治療が与えられず、仕事の場で発生すれば、無駄な労働や、ストレスが発生し、健康を害します。

20～30年後の社会では、円滑かつ手間のかからないコミュニケーション手段により、我々の健康リスクが大幅に低減されます。それに伴い、コミュニケーションの行き違いに起因する他のリスクも回避され、効率的かつ安全で、多くのリスクが低減された社会が実現されます。

Eチームの20-30年後のビジョンは、

ピース・テクノロジーで築く幸せな日常→幸福度日本一の楽園「信州」



20～30年後のニーズとして、心身ともに健康、災害やエネルギー問題を克服、情報と記憶の高度処理、近未来予測、自己メンテナンス機器が示されました。

これらのニーズは、幸せな日常を実現したり、それを脅かすリスクを取り除くものです。そのような技術をピース・テクノロジーと名付け、幸せな日常を過ごせる社会を築く鍵であると提案します。



第2回対話型ワークショップ予告

第2回目対話型ワークショップは、第1回目の未来ビジョンに対する現状を把握し、発案されたアイデアを実現するためのコンセプト提案を行います。

日 時: 2013年12月4日(水) 18:30~21:30(受付18:00)
 場 所: あがたの森 文化会館1-5
 対 象: 地域の方、企業の方、行政の方、大学教職員・学生
 参加費: 無料 定員40名
 申込先: 下記、お問合せよりお申込み下さい

20-30年先の
未来ビジョン

多様な参加者
による対話

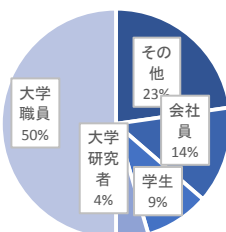
新しい
コンセプト提案



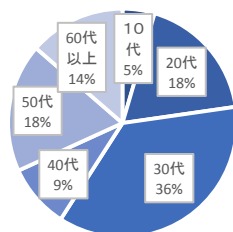
● 参加者へのアンケート結果 ●

- アンケート配布数: 32名
- 回収数(回答率): 22名(68.7%)

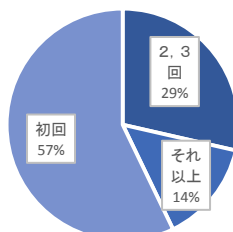
1.参加者属性



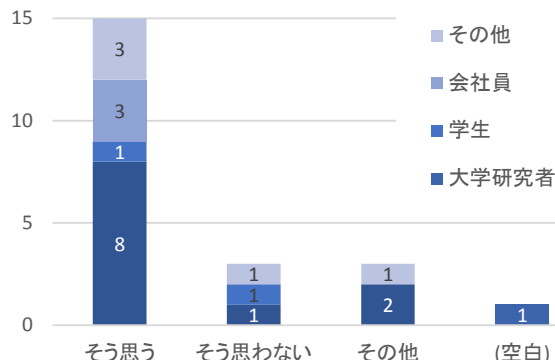
2.参加者年代



3.ワークショップ経験



Q 今回の対話型ワークショップは日常生活や仕事などで活かそうですか？



● 対話型ワークショップに参加してのご感想・ご意見 ●

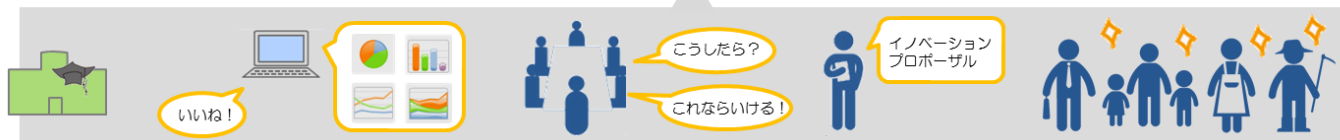
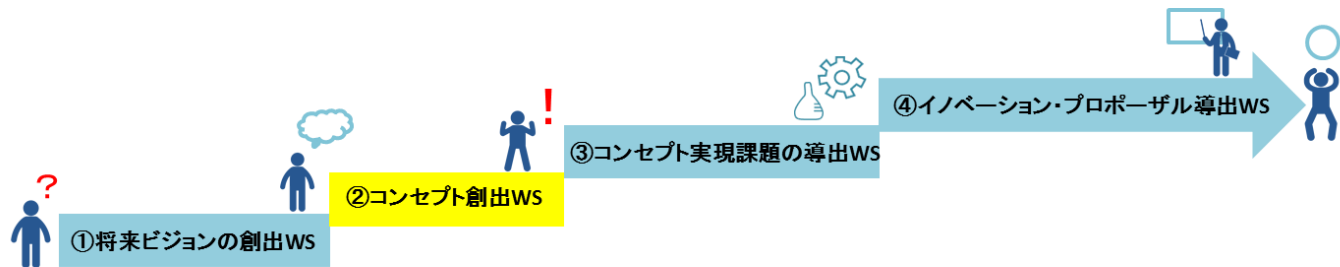
自分の考え方に変化(追加)があったように感じました。(30代・男性・その他)



長野ならではの魅力を生かした将来ビジョンを聞けていい刺激になりました。(20代・男性・その他)



もっと難しいことを語り合うのかと思ったら予想以上に参加しやすい内容だったので楽しかったです。(20代・女性・学生)



- 発行・お問合せ -

信州大学 産学官連携推進本部 リサーチ・アドミニストレーション(URA)室 (担当: 鳥山・土井)
 Tel:0263-37-3530 Fax:0263-37-3425 E-mail: info_ura@shinshu-u.ac.jp

HP: <http://www.shinshu-u.ac.jp/project/innovation-taiwa/>
 Facebook: 『信州大学イノベーション対話プログラム』
<https://www.facebook.com/shinshu.university.innovationtaiwa>

発行日: 平成25年11月5日

Facebook

